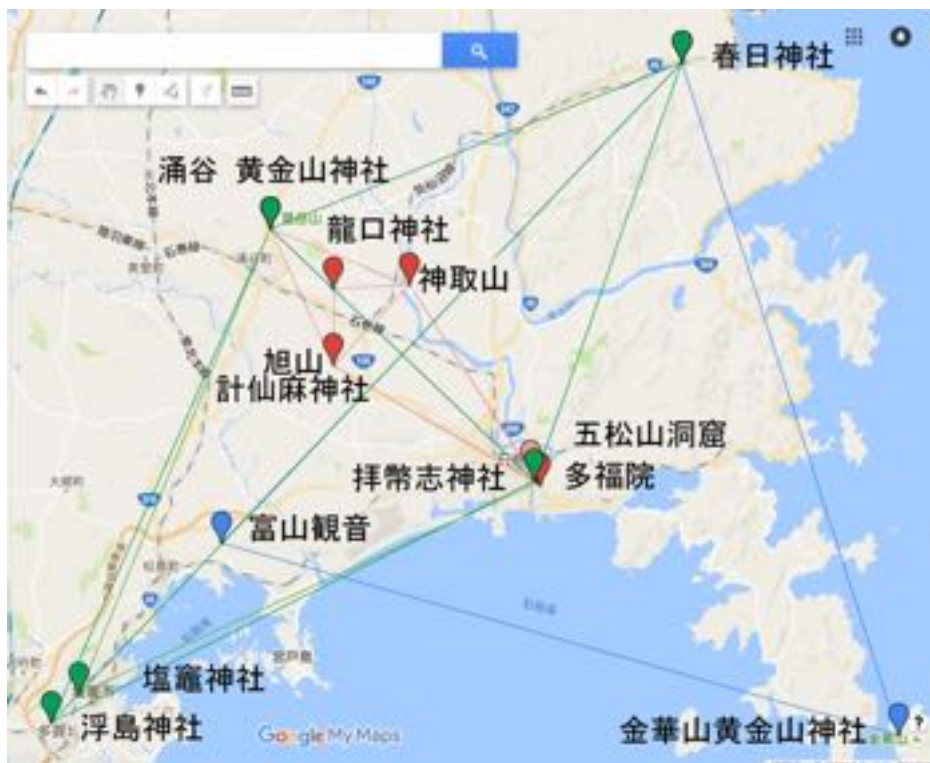


石巻の神々



しくみ

- 朝日山計仙麻神社 8.65km - 黄金山神社 - 神取山 8.65km
- 朝日山計仙麻神社 4.40km - 龍口神社 - 神取山 4.40km
- 朝日山計仙麻神社 13.58km - 五松山洞窟遺跡 - 大島神社 - 神取山 13.58km
- 朝日山計仙麻神社 13.81km - 多福院 - 神取山頂上 13.81km
- 黄金山神社 25.56km - 春日神社 - 拝幣志神社 25.56km
- 黄金山神社 29.02km - 塩竈神社 - 拝幣志神社 29.02km
- 黄金山神社 31.19km - 浮島神社 - 拝幣志神社 31.19km
- 富山観音堂 40.72km - 金華山黄金山神社 - 春日神社 40.72km

しくみ詳細

- 朝日山計仙麻神社 8.65km - 黄金山神社 - 神取山 8.65km
- 朝日山計仙麻神社 4.40km - 龍口神社 - 神取山 4.40km



勝頂角

黄金山神社

祭神は鉾山神の金山毘古（かなやまひこ）神。当地では金が発見される前から神が祀られており、小田郡（現：遠田郡）の人日下部深淵が、産金当時の神主であった。産金前の名は黄金山でなかったはずだが、不明である。740年代、平城京で聖武天皇が大仏塗金のための黄金を切望していた。当時、日本国内では金は採れないとされ、全て輸入に頼っていた。まさにその時、陸奥国守百濟王敬福が管内の小田郡で産出した黄金900両を貢上した。天平21年（749年）正月4日のことであった。900両もの砂金を収集し、奈良の都まで運ぶためには1年から2年の歳月が必要であり、実際に砂金が発見されたのは747年頃と考えられる。この黄金発見によって東大寺大仏は無事完成し、小田郡は永年、陸奥国は3年間免税とされた。宮城県遠田郡涌谷町涌谷字黄金宮前2 3



龍口神社

御祭神 豊玉彦命

創祀年代は江戸の初め。龍口山に柴刈りに来た七右衛門に夢のお告げがあり、龍神を祀ったという。しかし、天王山の石神社（豊岩窓尊（櫛石窓神））は、龍ノ口神社の分神といわれるらしい。元々は、境内社にある石神社の奥之宮かもしれない。『新撰陸奥風土記』には、式内社・石神社であるとする説が記されている。石巻市前谷地龍ノ口山

右脇侍角

朝日山計仙麻神社

祭神/倉稻魂命 豊玉彦命

創祀年代は不詳。式内社・計仙麻神社の論社の一つ。「三代実録」によれば、貞観元年正月清和天皇即位の大礼に際し京畿七道の諸神に対し神位昇叙のことあり。陸奥国では従五位下勲四等の計仙麻・志波彦・拝幣志・零羊崎・志波姫の諸神とともに従四位下に神位を進められた。石巻市北村朝日山 8



左脇侍角

神取山 鹿島神社

祭神/武甕槌神 創祀年月日不明。明治5年3月村社加列。桃生町神取



- 朝日山計仙麻神社 13.58km -五松山洞窟遺跡 -大島神社 - 神取山 13.58km
- 朝日山計仙麻神社 13.81km - 多福院 - 神取山頂上 13.81km



負頂角

五松山洞窟遺跡

古墳時代後期6世紀後半から7世紀初頭の遺跡。金銅装太刀、衝角付冑、骨角製品とともに19体の人骨が発見された。うち14体が成人。女性や少年、幼年のものも含まれる。被葬者は東国の国造クラスに対比される豪族と考えられる。頭蓋の形態は全体として関東地方の古墳時代人に近いが、成人男性2体の頭蓋に北海道アイヌとの類似が認められた。石巻市八幡町

多福院

古くは天台宗月光山日輪寺といった。元亀元年（1570）笹町氏が堂を復興し、在茂和尚（鹿妻山 法山寺 4世）が開山して曹洞宗日輪山多福院と改めた。室町時代前期の作といわれる「木像 大日如来像」が安置。石巻市吉野町

同線上

大島神社

式内社 旧村社 祭神 底筒男神 中筒男神 表筒男神 合祀 須佐之男神 通称は住吉神社。創祀年代は不詳。拝殿の扁額には「石巻惣鎮守」とある。三代実録には「清和天皇貞観五年十月二十九日、陸奥國勲九等飯大島神云々授従五位下」と記されている。

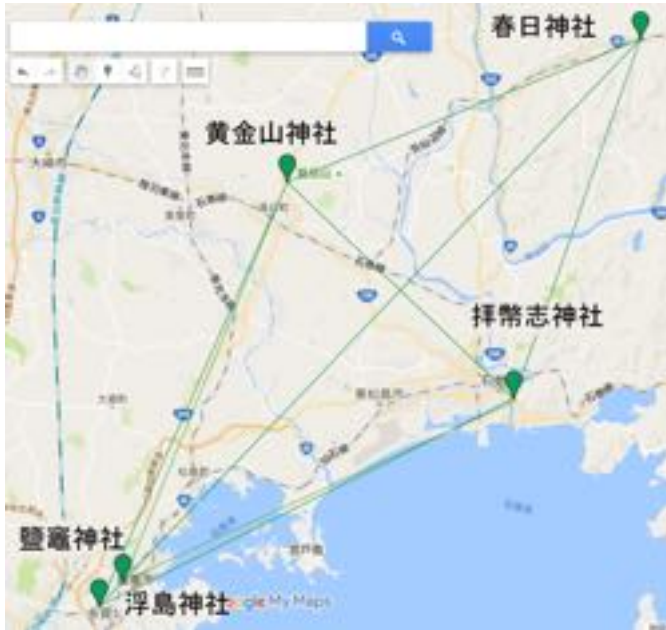
石巻市住吉町1-3-1



備考

黄金山神社はもともと別の神だった。龍口神社も本来は由緒ある石神社の奥の院だったらしい。龍口神社と計仙麻神社は海の主宰神である綿津見大神の豊玉彦。神取山は香取山ではないか。そこに天孫族武神武甕槌神の鹿島神社がある。同線上には石巻総鎮守で武神住吉神の大島神社があり、社殿は神取山を背にしている。これは、五松山洞窟遺跡に眠らされている金の採掘権を奪い取られた元々の蝦夷の豪族を封じるしくみではないか。蝦夷+出雲族と天孫族の争いはすでにあったのではないか。後ろに位置する多福院は鎮魂のためか。

- 黄金山神社 25.56km - 春日神社 - 拝幣志神社 25.56km
- 黄金山神社 29.02km - 塩竈神社 - 拝幣志神社 29.02km
- 黄金山神社 31.19km - 浮島神社 - 拝幣志神社 31.19km



勝頂角

春日神社

聖武天皇の天平感宝元年（749、奈良）行基菩薩の勸請にかかる羽黒権現社中に御同座の神である。安永3年9月「風土記書出」によれば祭神に「一殿 武雷神 二殿 経津主神 三殿 天児屋根命 四殿 久奈土神」とある。宮城県本吉郡南三陸町戸倉街道方65-4

左脇侍角

拝幣志神社

祭神 高皇産靈命 配祀 應神天皇

高御産巢日神は、天孫降臨神話等、天照大御神を中心とした「高天原系の神話伝承」に多く登場する。「はいへいし」と読むが、資料によっては「おがみいし」とも。箱崎八幡宮を合せ祀っており、通称は箱崎八幡神社。

創祀年代は不詳。一説には、日本武尊によって勸請されたという古社。社伝によると、往古は、箱崎山（五松山）の山頂に祀られていたが霊元天皇寛文年間(1663～87)、麓の現在地に遷座したという。



右脇侍角

黄金山神社（涌谷町） ※上記参照

負頂角

鹽竈神社

創建年代不詳。平安時代初期「弘仁式」には「鹽竈神を祭る料老万束」と記され、厚い祭祀料を授かっていた。近くには、奈良時代国府と鎮守府を兼ねた多賀城の精神的支えとなって信仰されたと考えられる。左右宮拜殿には、武神 武甕槌神と経津主神を守る。社伝によれば、東北地方を平定する役目を担った鹿島・香取の神を道案内されたのが鹽土老翁神の神であり、一説には神々は海路を亘り、七ヶ浜町花渕浜（現在の鼻節神社付近）からこの地上陸されたと言われ、又鹽土老翁神はシャチに乗って海路を渡ってきたと言う伝えもある。やがて鹿島・香取の神は役目を果たし元の宮へ戻ったが、鹽土老翁神は塩釜の地に残り、人々に製塩法を教えたとされる。塩釜の地名の起こりともなっている。

備考 左右宮（武甕槌神と経津主神）と別宮（鹽土老翁神）の参道の交差点にちょうどポイントがあたる。

浮島神社

奥塩老翁神と奥塩老女神の夫婦神を祀る。海の神、製塩の神、呪術・予言の神。創建は不明。多賀城創建の頃から存在していたと伝えられ『宮城県神社名鑑』では、多賀城の在った頃は栄えたのではないかとしている。鎮座地は平安時代に歌枕として詠まれた「浮島」の地と伝えられ小野小町の私家集にも当地を詠った和歌がある。また明治天皇の御製も残る。『朝野群載 卷第6』に所収の「式外神社進合御卜證文」には、白河天皇御代の延久6年（1074年）6月に陸奥国を代表して御卜を受ける3社の1つとして選ばれたことが記載されている。鹽竈神社の社史である『別当法蓮寺記』や『鹽社由来追考』には、当社が鹽竈神社十四末社の1つであると記され、いつの頃からか鹽竈神社の末社とされた。境内社に稻荷神社。宮城県多賀城市浮島1丁目1



備考

金の採掘地を守る大きな菱形。春日神社の天孫族3神（武甕槌神と経津主神、天児屋根命）に加え、第四殿に出雲系の久奈土神が祀られている。久奈土神富族の主祭神。塩竈神社も、もともとは蝦夷の地に最初にやってきた出雲系の鹽土老翁神が主祭神で、そこに侵略組の武甕槌神と経津主神が割り込んできたのではないかと。

拝幣志神社の高皇産靈命も天孫系。元々は八幡神社だったところに合祀したのだと思われる。石巻のしくみはほかにもたくさんあって複雑。もっと詳しく調べればどのように蝦夷が侵略されたかがわかるかもしれない。

■ 富山観音堂 40.7km - 金華山黄金山神社 - 春日神社 40.7km



負角

富山観音堂

坂上田村麻呂が大同年間（806～810）に牧山で賊将大岳丸を退治し、死体を首・胴・手足に分け、牧山・富山・篋岳の三箇所に埋葬し、慈覚大師作の観音菩薩像を安置したと伝えられ、石巻市「牧山」、涌谷町「篋岳」とともに奥州三観音として信仰されてきた。宮城県宮城郡松島町手樽字三浦



勝頂角

金華山黄金山神社

祭神 金山毘古神 金山毘賣神 天神八百萬神 地神八百萬神。式内社。創祀年代は不詳。社伝によると、金華山は、神代の昔、大己貴命と少彦名命が国作りをしている時、椿を作ろうと、金石を煉固めて作った山。天平二十一年、丸子連等が相謀りて山中より黄金を採取し、時の陸奥守百濟敬福によって黄金が朝廷に献上されたという。その功績に拠って、丸子連は牡鹿連の姓を賜わったという。丸子連等が黄金を掘った時、山頂に国常立命・海童神・金山毘古命の三柱を山腹に金山毘売命を祀ったが、後、本地垂迹により三柱を龍蔵権現、金山毘売命を弁財天と称した。石巻市鮎川浜金華山 5



勝角

春日神社 ※上記参照

備考

やはり、蝦夷の地に最初に産鉄系出雲族がやってきて、本当は奈良時代以前から金の採掘をしていたのだと思う。昔読んだ高橋克彦氏の小説を思い出す。蝦夷とはやや平和的な営みがあったのではないだ

ろうか。そしてのちに天孫族が、出雲+蝦夷の地を力づくで制圧して、金の採掘地を強奪したという構図ではないか。大岳丸やアテルイの戦いは、恨みをもった負け組残党の最後の抵抗だったと思われる。

出雲系「富族」の拠点と思われる「富山」を負角に置き、蝦夷残党の大將**大岳丸**の切り刻まれた屍をもって封じている。朝敵の恨みの念をも利用するおどろおどろしい悪魔教カバラ呪術のしくみ。相対する負角にも武神**雷神**や**経津主神**の春日神社。そして勝頂角の金華山黄金山神社には金山彦・姫に加え**天神八百萬神 地神八百萬神**。あらゆる神をもって蝦夷を封じている。さらに金華山を人気信仰地にして庶民の気も集める。大岳丸の屍は蝦夷の最大聖地大朝日岳（大富権現）と早池峰山（瀬織津姫）を封じるしくみ（前頁参照）にも使われている。

支配族は、私たち庶民の魂をも利用している。亡くなると遺骨をお墓に閉じ込めさせ、そこに家族や友人の悲しみや供養の念も集める。その墓地やお寺もしっかり支配者を守るしくみのポイントとして利用されているのだ。

支配者は古代から「お金」と「信仰」をもって庶民を支配してきた。信じ込まされてきた多くの似非神信仰により、大岳丸のような負け組たちの御霊は、今もなお日本中で封じられ一部の支配者が利を得るために利用され続けている。浮かばれない御霊。だまされ利用されてきた神々もまた、哀れに思えてくる。そして私たち庶民の命は軽んじられ、古代から苦しい生活を強いらされ続けているような気がしてならない。